

第14回 恵比寿映像祭 スペクトル後

2022年2月4日（金）～2月20日（日）

東京都写真美術館

やさしい日本語 による、じっくり見てみる ガイド

3F展示室

1 スペクトルな 博覧会：小原真史 企画

19世紀半ばから 20世紀前半にかけて、世界じゅうで いろいろな博覧会がひらかれました。そこに やってきた、たくさんの人たちが、スペクトルな その場の 気分を 味わいました。遠いところから 集めたものを 並べてみることによって たくさんの方が 世界についての 新しい 見方を 知る きっかけとなった 博覧会は、人と 物が おおきく 移動することで できていました。今、新型コロナウイルスが はやったので 人と 物が 移動することについて、考える時が きています。「博覧会の 時代」を ふりかえってみることは、現代の 社会にいる 私たちが 欲しいとおもっているものが なんなのかを見直す きっかけとなるでしょう。「スペクトル」を テーマに キュレーターの 小原 真史が 持っている 資料と 東京都写真美術館の コレクションを 組み合わせ 展示をします。

- ▶ 展示室に 「ステレオスコープ」という 道具が 置いてあります。これを のぞいてみると 写真が 違って 見えます。どんなふうに 見えるでしょうか？

3 平瀬 ミキ

これから未来には、エネルギー資源が なくなるかも しれません。もしも そうなった時のために、どう やったら 映像や イメージを 残すことができるでしょうか。

平瀬 ミキは、これまで メディアを 通して モノを みることを、もう一度 考えさせるような 作品をつくってきました。《三千年後への 投写術》は、現れる イメージの データや 映し出し方を

未来に とどめる 方法として、石を 使って 記録することに 注目した 作品です。平瀬は レーザー加工機を 使って 石を 彫って 写真彫刻を つります。そして そこに 光をあてて、光が はねかえって 壁に 映し出します。映像の メディアが 生まれた はじめの頃のことを 思い出させますし、未来に 向けて 残す 方法の ヒントに なるかもしれないと 教えます。

▶ それぞれの 作品には なにが 写っていますか？

6 アマリア・ウルマン

中国の 義烏は、毎日の 暮らしで 使う物 を 売る とても 大きな 市場が あって、世界中の 人が 集まります。この 作品の 主役の アナ（ウルマンが 演じています）も、ガテマラで 夫が 開いている 1ドルショップで 売するための 商品を 買うために 義烏に 行きます。アナは 中国で、外国の ことばを 話すことが できる力を 生かした 仕事をしたいのですが…。この 作品は セルフィー（自撮り）の やり方で 撮っています。市場、毎日の 暮らしで使う物、字幕の デザインなどのような、チープで 意味が なくて 多すぎる 情報が たくさん 出てきます。

▶ 自撮りしたから 写っていることや、おきている事を さがしてみましょう。

2階 展示室

8 山谷 佑介

写真家の 山谷 佑介は 写真を 写すことと ドラムをつかった パフォーマンスが ひとつになった 《Doors》という 作品を 作りました。ドラムセットの まわりに カメラが 置いてあって、山谷が ドラムを 叩いたときに おきた ゆれを センサーが 感じて 写真を 写します。強い ストロボの 光と いっしょに、ドラムを 叩いている 作家の すがたや まわりの ようすが カメラと つながった プリンターから 出てきます。この作品は 日本や 外国の 芸術フェスティバルや ギャラリーなどで 発表されて きました。

▶ この パフォーマンスを 展示会の間 毎週 土曜日に おこないます。
会場で 見てみましょう。

13, 15 パンタグラフ

パンタグラフは、たくさんの ^{りったいてき}立体的な アニメーションをつくっています。《ストロボの ^{あめ ある}雨を 歩く》では、^{くら やみ}暗い 闇の なかで ストロボライトが ついたり きえたりすると、^{てんじょう}天井に つるされて ^{まわ}回っている ^{かさ}傘にかいた ^え絵が アニメーションと なって ^{うご だ}動き出します。また《Clockwork Birdcage》では、^{とり}鳥かごが とても はやく ^{まわ}回っています。それを ^{とくべつ}特別な アプリを つかって ^み見たら、^{さくひん}作品が ^{うご}動き出して ^{りったい}立体的な アニメーションが ^う生まれます。いくつもの ^{すこ}少しずつ ^えちがう ^え絵を ^{つづ}続けて ^{うつ}映したら、^{ひと}みている ^{あたま なか}人が ^え頭の中で ^え絵と ^{あいだ}絵の 間に ^えあるはずの ^え絵を ^{えが}描いていくという ^{えい}映画の ^{ほうほう}方法を、ストロボの ^{せいしつ}性質や アプリを ^{つか}使って ^{あらわ}表しています。この ^{さくひん}作品で、^{まいにち}毎日 ^みふつうに ^み見ている ^{えいぞう}映像というものが ^いいったい ^{なん}なんなのか、もういちど ^き気づきます。

- ▶ ^{かさ}傘には ^えどんな ^え絵が ^かかいていますか？
それぞれの ^え絵は ^えどんなふう ^{うご}に ^{おも}動くと ^{おも}思いますか？

14 ひらの りょう

おばけと ^{えい}映画の ^{ふたつ}ふたつの ^{おな}同じところは ^{くらやみ}暗闇です。だいたいの ^{かお からだ}おばけは ^み顔も ^み体も ^み見えませんし、^{おばけ}おばけは ^{きょうふ}恐怖を ^{かん}感じますが、^{ひらの りょう}ひらの りょうの ^{さくひん}作品の 《ガスー》の ^{せかい}世界は、^{くらやみ}暗闇のなかに ^{ひか}光る ^{つよ}強い ^{ひと}ひとすじの ^{ひかり}光のように ^{あか}明るいです。日本の ^{にほん}ヤクザと ^ち血の ^{にお}匂いに ^{さそ}誘われる ^{ようかい}タイの 妖怪や、^み見えない ^{しぜん}ものたちから、^{くらやみ}自然の ^い暗闇の ^{いき}息づかいが ^き聞こえてきます。この ^{さくひん}作品の ^{おと}なかの ^{つく}音を ^つ作る 「フォーリー・アーティスト」という ^{しごと}仕事を、^{えい}映画の007や、^{しごと}ハリーポッターや、^{しごと}ミッション・インポッシブル ^{など}などでも ^ややっている ^{たんとう}ピート・バージェスが ^{たんとう}担当しています。

- ▶ この ^{えい}アニメーションには ^{せりふ}せりふが ^あありません。
アニメーションに ^で出てくる ^{ガスー}ガスーや ^{ヤクザ}ヤクザや ^{いぬ}犬は ^いどんな ^{ことば}ことばを ^{はな}話しているか ^{かんが}考えましょう。

17 サムソン・ヤン

この作品では、中国生まれの音楽を通して、文化の広がりとして正しく受け継いだ流れとはなんのことなのかをたずねられています。中国の清の時代、イギリスのひと、バローが書いた『中国旅行記』に楽譜が紹介されて、西洋に広まった中国民謡「Molihua(茉莉花)」は、オペラ「トゥーランドット」や北京オリンピックのメダル授与式で使われた有名な音楽ですが、今知られているものは西洋で少し変えられていて、元々の民謡とは違います。1990年代から香港で知られるようになった音楽は、そのころの香港でいくつかの国の特徴が混ざったものとしてはやります。それが「香港ポップ」になっています。

それとは別に、日本に古くから伝わる音楽である雅楽のなかの唐楽は、中国ではもうなくなった音楽ですが、特別なハーモニーやリズムなど、その元のカタチが日本にはのこっています。

- ▶ この映像には、いろいろな格好をした人が出てきます。どんな人がいますか？

オフサイト展示

WOW

毎日のくらしのどこにでも映像がたくさんある現代です。光がついたり消えたりすることで、人に興味をもたせたり、大きな声で情報を知らせるような映像が多いですが、いろいろな人がいる場所にはどんなふうに映像があるとよいのかを考えました。

この作品の映像は、自由に場所やものになじんでいきます。少しずつ光と影が柔らかく混ざり合って、その場所の一部になっていきます。

日が暮れるときの少しずつ変わっていく感じや雲のようすや夏の揺れる木の葉の間の光など、自然のなかでおきることのようなようすをこの作品は創り出します。

- ▶ 光はいろいろなふうに変わります。あなたは作品を見てどんな自然のできごとを思い浮かべましたか？